

# yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より  
パソコン室から 不定期 発行

No. 3 5

平成19年7月12日  
情報教育アドバイザー  
広田 さち子

## すごく・いろいろ・たくさん

見学のまとめや、学期のめあてをパソコンで作っています。このとき、何に注意して作ればよいでしょうか。

まず、なぜパソコンを使うのか、という点です。

一つには、もう手書きで作ったけれど、パソコンでもできるよ、ということ子どもたちにわかってほしい場合。スキルの授業としては、こうあってほしいと思います。

もう一つは、掲示物を作りたいとき。活字になるので読みやすいことと、さまざまな彩りでイラストや写真を付けることができますから、掲示するとききれいです。しかし、この場合は、注意しないと「掲示物づくり」になってしまい、本来「何を」作っているのか、「なぜ」作っているのかが置き去りにされかねません。

時間内に掲示物作りをしようとした場合、そこに載せる文章は、時間が限られているので、少々少なくなります。そのとき、よく書かれるのが、次のような文章です。

「すごくたくさんあってびっくりしました。」

「いろいろ見れておもしろかったです。」(この場合は、それ以前に日本語に問題がありますが)

「〇〇をがんばる。」

こういう書き方には、何も具体性がなく、伝わるものがありません。

そもそも、すごく・たくさん・いろいろな、といった「形容詞」(形容する表現)は、比較の対象があつて初めて意味を持ちます。また、比較の結果は、多分に主観的です。100個が「多い」か「少ない」かは、ものにもよりますが、判断する人に寄ります。ですから、「すごくたくさん」ではなく、「100個もあって多かった」とか、「大きかった」ではなく、「私の3倍もせいが高かった」といった表現になれば、伝えたいことが確実に読む人に伝わります。「がんばる」のも、「何をどのように」、例えば、「毎日ノート3ページ以上」のように書けると、達成したかどうかも明確になります。

普通の授業では、もちろんこういう点は指摘されていることと思いますが、パソコンを使った作品作りでも、情報教育での見方からは、少ない文字数でもきちんと伝えたいことを的確に表現する、という練習ができる場として捉えていただけると、よりいっそう授業時間を充実させることができるのではないのでしょうか。